早稲田アカデミー	5年		
	算数		
学習内容	9回　図形の移動 10回　総合（予習シリーズ５年㊦　第６回～第９回） 11回　仕事に関する問題 12回　水深の変化と比		
家庭学習ポイント	11月は第9回「図形の移動」、第10回「総合（速さと比、平面図形と比）」、第11回「仕事に関する問題」、第12回「水深の変化と比」の4回です。「図形の移動」では必ず図形が移動した軌跡を図に書き入れて「見える化」することが大切です。この作業を怠ると、どこかでミスをするようになります。問題の図が小さい、または小問数が多い場合は、自分で図を書いて考えることも重要になります。仕事算は既習単元ですが、5年生のこの時期で最も大切なのは比を活用することです。仕事の全体量とそれぞれが1日でこなす仕事の量を、比の数字で表して考える習慣をしっかりつけていきましょう。「A1人だと20日、B1人だと30日かかる仕事なら仕事の全体量を60（20日と30日の最小公倍数）とおき、Aが1日にする仕事を3、Bが1日にする仕事を2とおく、といった手順です。「水位の変化」で重要なのは、正面から見た図を自分で書いて考えることです。こちらも底面積と水の深さの逆比の関係を多用することを心がけましょう。		
課題の把握と解決策	チェック1	図形の移動の問題では、必ず動いたあとの様子を図に書き込んでいますか？	チェック
	解決策	初歩的な問題からしっかり書く習慣をつけることが大切です	□
	チェック2	仕事算で、すべて仕事の全体量を1と置いていませんか？	チェック
	解決策	できるだけ比を使い、仕事の全体量を公倍数を使って表す方法を試してみましょう	□
	チェック3	水深の変化に関する問題では、正面から見た図を書いて考えていますか？	チェック
	解決策	水槽問題では「お約束」のテクニックです	□
	チェック4	水深の変化に関する問題で「同じ体積の部分」に着目して考えていますか？	チェック
	解決策	水の体積が一定なら、底面積と高さ（水深）は逆比の関係になりますね	□
	チェック5	過去の学習内容の復習ができていますか？	チェック
	解決策	2ヶ月、3ヶ月前に習った内容の復習を、少しずつでも家庭学習に入れられるのが理想です	□

早稲田アカデミー	5年		
	国語		
学習内容	9回　俳句／俳句を読み解く　文語的表現②／同訓異字 10回　総合（予習シリーズ５年㊦　第６回～第９回） 11回　随筆文(5) ／経験と感想③　文節と文節の関係① 主語・述語・修飾語／外来語 12回　随筆文(6) ／意見と理由③　文節と文節の関係② 分けて〈関係〉を考える／ことわざ		
家庭学習ポイント	11月は俳句・随筆を学習します。形式や句切れ、枕詞などの表現技法とともに、代表的な歌を学習します。短歌・俳句の読解に呼応するように、文語的表現や季語・暦の知識も学びます。短歌・俳句はお子さんにとってなじみが薄い点に加え、文語が使われる等の理由で敬遠されがちです。俳句の季語について、または短歌が歌われた季節についての出題も多いですが、旧暦になるため四季を捉えそこなうケースがあります。特に、現代の季節感とズレのある言葉には注意が必要です（五月雨・新緑＝夏、天の川・七夕＝秋など）。短歌・俳句はまず音読してみて、歌のリズムを体感し、句切れも音読によって実感してください。それから対訳を読んで、歌や句の内容を確認します。「ず・ぬ・ざる」などの打消し表現や「ごとし」に関しては、文語とはいえ理解しておきたいところです。こうした表現は、ことわざや時代の古い散文にもみられます。		
課題の把握と解決策	チェック1	短歌や俳句を読むとき、「映像化」を行っていますか？	チェック
	解決策	状況をありありと思い浮かべる練習は、物語文の読解にも役立ちます	□
	チェック2	旧暦の春夏秋冬がだいたい現在のいつくらいかを把握できていますか？	チェック
	解決策	おおよそ春＝2～4月、夏＝5～7月、秋＝8～10月、冬＝11～1月くらいで考えましょう	□
	チェック3	短歌や俳句を読むとき、季節を感じながら読んでいますか？	チェック
	解決策	季語以外にも季節を感じるポイント、言葉を探して読んでみましょう	□
	チェック4	「随筆文の読解のポイントは」と聞かれたら説明できますか？	チェック
	解決策	「事実と意見読み分ける」といった内容がわかっていればいいですね	□
	チェック5	文章を読み始めて「だいたいこんな話かな？」というイメージができていますか？	チェック
	解決策	文章の冒頭や最後に述べられることが多いこと、また「つまり」といった語句にも注目しましょう	□

早稲田アカデミー	5年							
	理科							
学習内容	9回　流水と地層 10回　　総合（予習シリーズ５年㊦　第６回～第９回） 11回　光と音 12回　火山と地震							
家庭学習ポイント	11月は9回「流水と地層」10回「総合６回９回）」11回「光と音」12回「火山と地震」が学習範囲となります。「流水と地層」では、地層ができていく過程や、できた地層が自然の力で変化していく様子を学びます。まずは流水の3作用をしっかり理解することが重要です。その上で、地層という「結果」から原因（環境）をイメージすることを意識しましょう。地層の柱状図による問題は、難関校を中心に入試にも頻出です。標高を基準にして、図の高さを揃えて書き直して比較するなど、工夫して考えて見ましょう。光と音」では、音の3つの性質「音の強弱」「音の高低」「音色」が何によって決まるのかを理解しておくこと、光では「光の直進」「光の屈折」「光の反射」が身近にどのような場面で見られるかも押さえておきましょう。音速の計算問題は難しく見えるのですが、実際には算数の旅人算です。音が進む様子を図に書き表して考えると、勘違いやミスが減ります。場面で見られるかも押さえておきましょう。「火山と地震」では、まず6種類の火成岩の分類をしっかり頭に入れておくことが重要になります。地震では初期微動を伝えるP波、主要動を伝えるS波の速さをグラフから読み取り計算することが要求されます。							
課題の把握と解決策	チェック1	流水の3作用を説明できますか？	チェック					
	解決策	浸食作用、運搬作用、堆積作用ですね（「堆積」を「体積」を間違わないよう注意です）	□					
	チェック2	地層の新旧を正しく判別できていますか？	チェック					
	解決策	新しい地層ほど、他のものの影響を受けにくい（切られる、曲げられるなど）を軸に考えましょう	□					
	チェック3	凸レンズを通った光の進路を正しく作図できますか？	チェック					
	解決策	出題頻度の低い問題ですが、だからこそ差がつく問題です	□					
	チェック4	音速計算を正しく処理できていますか？	チェック					
	解決策	算数の「旅人算」です。図を書いて考えるようにしましょう	□					
	チェック5	6種類の火成岩をすべて答えられますか？	チェック					
	解決策	リュウモン岩・安山岩・玄武岩（火山岩）・カコウ岩・センリョク岩・ハンレイ岩（深成岩）です	□					

早稲田アカデミー	5年							
	社会							
学習内容	9回　江戸時代（１） 10回　総合（予習シリーズ５年㊦　第６回～第９回） 11回　江戸時代（２） 12回　江戸時代（３）							
家庭学習ポイント	11月から12月の初旬にかけて、4回に分けて江戸時代を学習します。第9回では江戸幕府の成立から五代将軍綱吉の政治までを学びます。鎖国までの流れや大名統制など、江戸時代の基本構造が出来上がるまでの過程は特に重要です。第11回では江戸時代の農業や交通、社会全体の変化、元禄文化、化政文化の２つの文化について、そして第12回では三大改革と開国への流れについて学びます。受験勉強において、江戸時代について学ぶべき情報量は非常に多く、これを３回の授業で処理するのはかなり厳しいです。特に第11回と第12回は十分に整理しきれないままにならないよう、注意が必要です。江戸時代に関して学ぶ内容で年表に落とし込んで整理できるパートは、しっかりまとめて整理し、「誰」が「いつ頃」活躍したのかを理解しておきましょう。9回の「鎖国への流れ」や12回「三大改革」といった部分は、年号と人名を軸に年表上で整理しておくのがおすすめです。また11回の元禄・化政文化や交通（海上交通と五街道など）に関しては、別途、表や地図をもとにまとめて整理しておくといいでしょう。							
課題の把握と解決策	チェック1	長い江戸時代、おおまかな「区切り感」を持てていますか？	チェック					
	解決策	成立期（1～3代）・安定期（4～7代）・改革期（8～12代）・幕末期（13～15代）のイメージです	□					
	チェック2	歴史学習において年表を作成していますかか？	チェック					
	解決策	江戸時代では政治史などを中心にまとめておくとよいでしょう	□					
	チェック3	1639年、1837年、1853年といった超重要年号は押さえられていますか？	チェック					
	解決策	1639年＝鎖国の完成、1837年＝大塩平八郎の乱、1853年＝黒船来航ですね	□					
	チェック4	ルーティンの学習に地理を組み込んでいますか？	チェック					
	解決策	特に地理が苦手だったお子さんは、長期間放置すると大変です	□					
	チェック5	歴史学習の「スタイル」を確立できていますか？	チェック					
	解決策	古代～中世くらいのうちに「因果関係で流れを掴む」学習法を身につけてしまいましょう	□					